



環境かわら版

2025年3月号(346号)



「もりの学舎(まなびや)まつり」を開催します(P3)



オオキンケイギクの駆除にご協力をお願いします(P4)



「2025 愛知環境賞」の表彰式を行いました(P5)



モリゾー キョロロ
あいち SDGs アンバサダー ©GISPRI

愛知県は「SDGs 未来都市」として、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取組を推進しています。県の環境に対する取組は、環境局 Web ページ「あいちの環境」で紹介しています。



「あいちの環境」(<https://www.pref.aichi.jp/site/kankyo/>)



「あいち環境イノベーションコンソーシアム」を 設立しました



私たちの生活の基盤となる地球環境の悪化が深刻さを増しており、カーボンニュートラルの実現、サーキュラーエコノミーへの転換、ネイチャーポジティブの達成といった環境課題への対応が必要となっています。

愛知県では、こうした環境課題の解決に向けて、産学官金の連携の下、当地域が一体となって愛知発の環境イノベーションを創出・実装するため、本年1月31日に「あいち環境イノベーションコンソーシアム」を設立しました。

コンソーシアムは、電力、ガス、石油といったエネルギー事業者、鉄鋼、自動車、ガラスなどの製造事業者など当地域を代表する企業21社を中心として、大学、金融機関、行政機関、昨年9月に採択したスタートアップ等を合わせた51団体で構成されています。

知事の出席の下、設立日にSTATION Aiで開催された発足式では、コンソーシアムの規約やロゴマーク、事業計画が承認されました。また、発足式後に会員交流会を実施し、会員間の情報交換を図るとともに、採択プロジェクトの事業者から事業説明をしました。

今後は、企業がモノづくりの中で培った技術力をベースとして、大学の研究力、金融機関のファイナンス支援、行政の政策支援、そしてスタートアップの革新的なアイデアと迅速な実行力を組み合わせて、環境イノベーションの創出・実装を推進します。

具体的な取組としては、コンソーシアムのネットワークを活用し、最先端のシーズや企業ニーズを内外に情報発信するとともに、コンソーシアムに参加する企業とスタートアップ等との連携・協働による新たな先進的プロジェクトの創出を目指します。

また、採択プロジェクトの社会実装に向けて、企業とのマッチングなどの伴走支援を継続するとともに、新たに、試験機や試作品等を現場に導入して最適な事業スキームを検証する実証実験の実施を予定しています。



発足式の記念撮影

あいち環境イノベーションコンソーシアムの概要

目的：環境分野の課題解決に向けて、産学官金の連携の下、愛知発の環境イノベーションの創出・実装を目指す。

設立日：2025年1月31日

活動内容

- ・企業連携による新たな先進的プロジェクトの創出
- ・最先端のシーズや企業ニーズの情報発信
- ・会員の連携促進・情報交換
- ・採択プロジェクトの事業化の推進 等

参加団体一覧

民間企業	愛知製鋼(株)、出光興産(株)、AGC(株)、サーラエナジー(株)、敷島製パン(株)、シキボウ(株)、(株)新東通信、大同特殊鋼(株)、中部国際空港(株)、中部電力(株)、東海旅客鉄道(株)、東邦ガス(株)、トヨタ自動車(株)、(株)豊田自動織機、トヨタ車体(株)、トヨタホーム(株)、名古屋鉄道(株)、日本製鉄(株)、日本特殊陶業(株)、ノリタケ(株)、(株)LIXIL	【21社】
大学	愛知工業大学、中部大学、豊橋技術科学大学、名古屋大学、名古屋工業大学	【5大学】
金融機関	(株)あいち銀行、(株)名古屋銀行、(株)三菱UFJ銀行	【3社】
行政機関	経済産業省中部経済産業局、環境省中部地方環境事務所、愛知県、名古屋市、豊橋市、岡崎市、豊田市	【7団体】
採択スタートアップ等	(株)Eサーモジェンテック、(株)fff fortississimo、サハシ特殊鋼(株)、(株)スタジオスポビー、(株)Spacewasp、DeepForest Technologies(株)、東洋建設(株)、(株)豊橋バイオマスソリューションズ	【8社】
その他	愛知県商工会議所連合会、愛知県商工会連合会、中部経済同友会、(一社)中部経済連合会、あいちゼロカーボン推進協議会、(公財)愛知臨海環境整備センター、STATION Ai(株)	【7団体】
計	51団体	

環境政策課 環境イノベーション推進グループ
電話 052-954-6982 (ダイヤルイン)



「もりの学舎(まなびや)まつり」を開催します



愛・地球博記念公園内の環境学習施設「もりの学舎」では、名古屋キワニスクラブの協賛により、「もりの学舎まつり」を開催します。

キッズインタープリター（小学校4～6年生）による自然体感プログラム「キッズインタープリターデビュー」や、お散歩しながら謎を解いていく「ナゾトキの森」、自然遊び体験や工作体験ができる「ヒーローバ・まなびーや」などのプログラムを実施します。

また、「もりの学舎まつり」に参加された方には、素敵な記念品をプレゼントします。

参加費は無料です。ご参加をお待ちしています。



昨年度の様子



記念品の一例（ミニタオル）

1 日時

3月16日（日）11:00～15:00

2 内容

(1) キッズインタープリターデビュー（事前申込制）

1回40～55分程度の自然体感プログラムです。

- ・森の不思議発見ツアー（自然体感ツアー）
- ・森のクラフト（工作体験）
- ・怪盗ゴールドからのちょうせんじょう（自然遊び体験）

(2) ナゾトキの森（当日受付）

(3) ヒーローバ・まなびーや（当日受付）

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/press-release/r6fes.html>)



環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208（ダイヤルイン）



「AEL(あえる)ネット環境学習

スタンプラリー」を開催しました



県民の皆さんに楽しく環境について学んでいただくため、愛知県環境学習施設等連絡協議会（略称:AEL ネット）に加盟する168の環境学習施設等が連携し、2024年6月21日から2025年2月23日まで「AEL ネット環境学習スタンプラリー」を開催しました。

このスタンプラリーは、環境学習施設等への来館や環境をテーマとした講座・イベントへの参加によりスタンプを集めるもので、スタンプを3個以上集めてご応募いただいた方の中から、抽選で図書カード等の記念品をプレゼントしています。

AEL ネット環境学習スタンプラリー対象講座の様子



愛知県弥富野鳥園
「巣箱・えさ台づくり教室」



春日井市
「親子おもしろ実験室」

スタンプラリーには多くの方にご参加いただき、記念品の抽選には、1,000件を超える応募がありました。参加者からは、「スタンプラリーがあることで、ここにいてみようかなと興味を持つきっかけになった」「どの講座もとても楽しく、子どもたちも環境に興味を持つことができた」「楽しかったから、また行きたくなるし、思い出に残るので、それが学びにつながると思う」などの感想が寄せられました。

来年度も、6月頃から開催する予定です。是非ご参加ください。

(<https://ael-stamp.jp>)



エコりん

AEL ネット環境学習スタンプラリー

検索

環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208（ダイヤルイン）

オオキンケイギクの駆除にご協力をお願いします



オオキンケイギクは、5～8月に全国の路傍や河川沿いで黄～^{だいたい}橙色の目立つ花を咲かせます。人間活動に伴って海外から持ち込まれた生物（外来生物）の中でも、特に生態系等に被害を与えるおそれのあるものとして、外来生物法に基づく「特定外来生物」に指定されており、栽培や生きた状態での運搬等が規制されています。地域本来の生態系を守るため、駆除活動への参加や、ご自分で管理する土地における抜き取りなど、オオキンケイギクの駆除にご協力をお願いします。

1 オオキンケイギクについて

オオキンケイギクは、1880年代に観賞用に導入されました。育成が容易できれいな花を咲かせることから、戦後、全国各地で法面緑化等に使用されましたが、その後、河川敷や埋立地に侵入し、その強い繁殖力で在来植物の生育地を奪うようになりまし

た。特に、河川中流部の河原にはカララサイコなどの希少な在来植物が生育しており、深刻な影響を与える可能性があります。



オオキンケイギク

2 オオキンケイギクの駆除について

オオキンケイギクの駆除に際しては、根ごと引き抜く、種を落とさないよう気をつける、花をつけていない小さな株も含め実施する範囲内は徹底的に駆除するなど、いくつかの注意点があります。詳細はWebページをご覧ください。



愛知県では、オオキンケイギクの駆除等をきっかけとして、県民の皆さんに外来種問題について知っていただくとともに、地域における外来種防除の取組を推進していきます。

自然環境課 野生生物・鳥獣グループ
電話 052-954-6230（ダイヤルイン）

水質事故の未然防止にご協力をお願いします



工場・事業場で使用・保管している油や有害物質が、公共用水域（河川や海など）に流出する水質事故は、年度始めの人事異動により不慣れな作業を行う場合や、その後の梅雨期及び台風期に発生するリスクが高まります。

全国的にも、豪雨や台風により河川が氾濫し、油などが流出する水質事故が度々発生しています。

水質事故を未然に防止し、事故発生時の影響を最小限に抑えるためには、事前の対策及び事故発生時の速やかな対応が重要です。施設の日常点検や工場内の清掃など、できることから取り組みましょう。

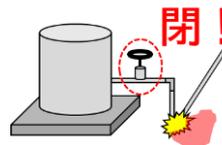
<事前の対策例>

- ・流出防止設備（防液堤など）の設置
- ・排水処理施設や油等貯蔵施設の点検
- ・工場内の排水溝や油水分離槽の清掃

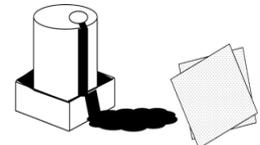
- ・拡散防止機材（土のう、吸着マットなど）の準備
- ・対応マニュアルの作成
- ・訓練の実施

<事故発生時の対応>

- ・流出停止措置
- ・拡散防止措置



例：配管の閉鎖



例：吸着マットによる回収

- ・関係機関（市町村、県民事務所等）への連絡

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/0005.html>)



愛知県 水質事故未然防止対策

検索

水大気環境課 水・土壌規制グループ
電話 052-954-6222（ダイヤルイン）

「2025 愛知環境賞」の表彰式を行いました



愛知県では、2005年の愛知万博を契機に、企業、団体などが行う先駆的で効果的な<技術・事業><活動・教育>の事例を「愛知環境賞」として表彰しています。

21回目となる今回は、サーキュラーエコノミーやカーボンニュートラルに関する取組など、45件の応募の中から、金賞の大同特殊鋼(株)の「炉体旋回式電気炉『STARQ® (スターク)』をはじめとした高機能製品開発によるサステナブル社会への貢献」を始め15件の受賞者を決定しました。



2月13日にホテルメルパルク名古屋で開催した表彰式では、知事、環境パートナーシップ・CLUBの勝野哲^{かつのさとし}会長(中部電力(株)代表取締役会長)、(株)中日新聞社の池口真美^{いけぐちまみ}事業局事業統括部地域貢献課長、名古屋市の柘植弘安^{つげひろやす}経済局担当部長から各受賞者に対して表彰状と楯^{たて}が授与されました。



「金賞」の 大同特殊鋼(株)

2025 愛知環境賞 受賞者一覧

賞の種類	受賞者	受賞事例	
金賞	大同特殊鋼(株)	炉体旋回式電気炉「STARQ® (スターク)」をはじめとした高機能製品開発によるサステナブル社会への貢献	
銀賞	三和油化工業(株)	リン酸廃液のリサイクルによる資源確保及び農福連携による地域共生社会への貢献	
	中部国際空港(株) 全日本空輸(株)中部空港支店/ANA 中部空港(株) 大和エネルギー(株) 三陽化学(株) 愛知プラスチック工業(株)	空港会社、航空会社、プラスチック回収・原料化・成形事業者の連携によるサーキュラーエコノミー型の循環モデル	
	日東工業(株)	気候変動に適應し、安全・安心で長く使える電気設備の製品開発	
	中日新聞社賞	(一社)BUN-KAI	持続可能な竹林整備活動モデルの構築と地域活動の醸成
	名古屋市長賞	ブラザー工業(株)	加工領域拡大とコンパクト設計を両立し、省エネ化と高生産性を実現した自動切削加工機「SPEEDIO」でGXに貢献
優秀賞	愛知海運(株)	太陽光パネルのメーカーと協働した高度分離技術によるガラス等の再資源化事業	
	(株)INU I	工業用断熱材アルミファイバーの加工時に発生する端材のリサイクル事業の確立	
	大府市環境パートナーシップ	パートナーシップ活動を生かした環境分野における「学び、気づき、行動する市民・事業者」の創出と育成	
	(株)おとうふ工房いしかわ	国産大豆を使った豆腐製造からなる環境に配慮した豆腐サプライチェーンの構築及び環境教育活動	
	喜栄丸カベヤ水産加工	未利用深海魚を原料とした魚醬とふりかけの商品開発・普及活動による地域貢献	
	(株)三五	広める、広がる三五の自然共生～自然と共生するひとづくりの実践～	
	大豊工業(株)	世界初の超低エネルギー排水処理システム「アクアブレイナ」で大幅なCO2削減	
	中央精機(株)	工場排熱等を利用した熱音響冷却システム「ONE-LOOP」の開発	
八百富(株) 八百富農園(株)	「有機農産物の生産」と「販売における廃食用油回収」と「リサイクル」のビジネスモデル		

詳細は愛知環境賞のWebページをご覧ください。

(<https://aichi-shigen-unkan.jp/kankyoushou/>)

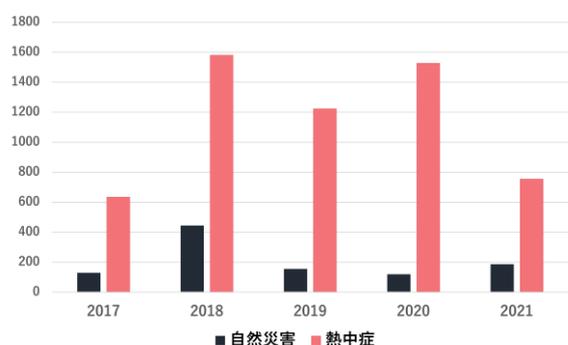


資源循環推進課 循環グループ
電話 052-954-6233 (ダイヤルイン)

愛知県気候変動適応センターは、気候変動の緩和と適応を融合した地域づくりについて考える「気候危機対策交流フォーラム」を、愛知県地球温暖化防止活動推進センターと共催で1月23日に開催しました。

基調講演に「気候変動がもたらす未来の死者数～季節性の変化に迫る～」と題して、東京大学大学院医学系研究科の橋爪真弘教授^{はしづめまひろ}にご講演いただきました。本号では、講演内容の一部を紹介します。

日本の熱中症救急搬送数は、2020年以降は年平均約7.5万人であり、2024年には過去最高の9.5万人以上を記録しました。また、2017年から2021年までは、熱中症により年平均1,145人が亡くなっており、これは同時期に起きた自然災害の5.5倍になります。



自然災害：大雨・豪雨（土砂災害）、台風、雪害、地震、噴火等
 自然災害と熱中症による死者数（2017～2021年）
 （令和4年防災白書および人口動態統計より）
 講師が作図 一部凡例色を変更

暑さの健康影響は、熱中症だけでなく、暑さからくる心筋梗塞^{こうそく}などの「暑熱関連死」にも注目する必要があります。2015年から2019年までの暑熱関連死者数は、合計3.3万人以上であり、熱中症による死者数の

7倍にのびります。

2020年の東京23区の熱中症による死者について調べたところ、9割が65歳以上の高齢者であり、9割が屋内で亡くなっていました。さらに、屋内で亡くなった方のうち9割がエアコンを使用していなかったことがわかりました。

熱中症を含む暑熱関連死を防ぐには、エアコンの使用が有効です。しかし、中長期的には、エアコンを多用すると電力使用量が増加し、発電に伴う温室効果ガスの排出が地球温暖化を促進させるため、更なる暑熱関連死を引き起こす可能性があります。したがって、エアコンだけに頼らない暑熱対策を検討する必要があります。



基調講演の様子

講演後の質疑応答では、エアコン使用以外の個人でできる対策として、暑くなる前から適度な運動を行い、汗をかきやすい体をつくり、水分を取る習慣をつけることが有効であるとお話が出ました。

環境調査センター 企画情報部
 愛知県気候変動適応センター
 電話 052-910-5489（ダイヤルイン）

※掲載のイベントや講習会等は、天候の影響等により、内容を変更又は中止する場合があります。

愛知県環境情報紙「環境かわら版」(第346号)
 発行日 2025年3月3日
 編集・発行 愛知県環境調査センター 企画情報部
 所在地 〒462-0032 名古屋市北区辻町字流7-6
 電話 052-910-5486(ダイヤルイン)
 URL <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/0000007029.html>
 (今月号とバックナンバーを掲載しています。)

掲載記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いいたします。